

雜 錄

燃料協會創立三週年記念大會 大正一一年六月二十四日を以て呱呱の聲を上げたる燃料協會に於いては創立以來燃料動力問題が國防上、國家經濟上將又國民生活上如何に重大なる意義を有せるかに關し或は講演に或は會誌によりて極力之れが闡明に努力する所ありしが恰も本年六月は創立滿三週年に相當せるを以て之を記念すると同時に此際廣く燃料動力問題の緊要なる事を世に訴へんが爲め六月二十七日午後一時半より丸の内帝國鐵道協會に於いて記念講演大會並に懇親會を開催せり

記念講演大會 當日は近來稀なる快晴にて定刻前會場三階の大講堂は既に多數の聽衆を以て滿たされ、協會側より吉村理事長、箱石常任理事、伊木、日下部、田中、内藤、水田、水谷、米倉の各理事以下主事、來賓側にては當日の講演者たる秦商工省政務次官、後藤子爵、大河内子爵、内藤日石社長を首め大橋陸軍省兵器局長、小林海軍省軍務局長、金原地質調査所長、大島燃研所長、加茂朝鮮燃研所長、藤野工業化學會長、工學博士高松豐吉氏其他多數官民、各新聞通信記者諸君の出席あり定刻吉村理事長開會を宣し左記の順序にて開催せられたり

- | | | | |
|--------------------|---------------|--------|-----|
| 開會の辭 | 燃料協會理事工學博士 | 米倉 | 清族君 |
| 内燃機關に於ける油の燃焼に關する研究 | 理化學研究所長工學博士子爵 | 大河内正敏君 | |
| 燃料政策の確立 | 商工省政務次官 | 秦 | 豐助君 |
| 人生と燃料問題 | 子爵 | 後藤 | 新平君 |
| 石油坑道掘に關する所慮 | 日本石油株式會社々長 | 内藤 | 久寛君 |
| 閉會の辭 | 燃料協會理事長 | 吉村 | 萬治君 |

因に當日は聽衆約三百に達し五時すぎ盛會裡に閉會したり、當日講演要旨左の如し

▲内燃機關に於ける油の燃焼に關する研究

理研所長工學博士子爵 大河内正敏君

内燃機關の代表的型體三種即ガソリン・エンジン、ホットバルブ・エンジン、及ディーゼル・エンジンを擧げ各其の特徴機構を説明する處あり而して之等の諸機關内に於て燃料が如何なる有様に燃焼するやに就き研究する目的を以て種々の液體燃料を以て左の如き測定を試み其の結果を發表せられたり即ち(一)常壓及高壓に於ける液體燃料の發火點並發火に至る時間(ワルテン・ツァイト)の測定、(二)各種溫度及壓力に於ける平面上の液體燃料蒸發時間の測定(三)恒容燃焼試験(四)燃焼速度の測定(五)燃料油が氣管に噴霧せらるゝ場合の狀況の測定等に就き述べられたり

▲燃料政策の確立

商工省政務次官 秦 豐 助君

國力の充實と國民生活の安定とは政治の目的にして其の中武力の方面に於ては既に略完成せらるゝも産業の振興に就ては今後大なる努力を要する處あるは明なり其の一道具として燃料問題は甚だ重要にして而かも尙其の政策の確立を見ず吾人は本問題解決の爲には水力電氣事業を起し、山林の亂伐を防止し、瓦斯事業を擴大し、石炭採取法の改善並びに鑛區整理を行ひ更に泥炭、褐炭の利用法を考究し併せて燃料運輸方法の改良或は石油坑道掘の採用其他低溫乾餾、油頁岩工業等よりの新燃料或は代用燃料の研究、石炭業者の聯絡合同及燃料資源調査等に努力するを要す

要之に我邦の現状に鑑み燃料政策を確立せしむる事は頗る重大にして一日も早く其目的を達すべく各人の努力を要すと説けり

▲人生と燃料問題

子爵 後藤 新平君

燃料問題は獨り専門家のみに委すべきに非ず人類一般の大に考慮すべき問題なり燃料は單に石油の類に限られず之等は體外燃料にして尙他に體内燃料あり人類は體内燃料に依り生活すべきものにして之何れもサイアンス